

# 「一生懸命がすばらしい」



〒722-0023 広島県尾道市東則末町9番53号  
E-mail:kurihara-j@onomichi.ed.jp  
電話: 0848-23-3811

令和5年12月18日  
発行者 栗原中学校  
教頭 松浦 淳

## ★いよいよ冬休み！ 年末年始の時間をうまく活用し、「今年一年を振り返り、来年の新たな目標を立てる」良き機会に！

いよいよ今週22日（金）で2学期が終わります。そして、あと2週間で今年が終わります。生徒・保護者の皆様にとって、どのような1年だったでしょうか。

思い起こせば、令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類に変更となったことに伴い、今年度の多くの行事は、コロナ禍前の形態で実施することができました。

コロナ禍の中で、生活様式が様々に変化し、まだまだ慣れていないところもあるかもしれませんが、これまで“がまん”してきた分、何か一つでも今後の生活にプラスとしてつながるよう、一人一人がしっかりと前を向き、見通しが持ちにくいこの社会を主体的にどう生きていくのかについて、みんなで一緒に考えていきましょう。

これから始まる冬休みの期間、とくに年末年始には、家でゆっくりできる時間も増えると思います。年の変わり目に、じっくりと家族や親戚、友達と話し合い、今年の自分の頑張りを振り返るとともに、来年の新たな目標を考えてほしいと思います。

特に、3年生は、入試を目前に控え、不安も大きいとは思いますが、自分の夢の実現に向けて、みんなで力を合わせて乗り越えていきましょう！



## インフルエンザ警報発令中！

### ～ 感染の予防と拡大防止対策の徹底を！ ～



令和5年11月24日に、県内全域に「インフルエンザ警報」が発令されました。前回の発令は令和元年12月19日で、令和2年度以降の発令はありませんでした。本校では、11月上旬に大流行し、現在は一定の落ち着きはあるものの、まだまだ感染の報告が続いております。インフルエンザは、予防できる病気です。ご家庭でも、次の点に注意してください。

- ① 外から帰ったときだけでなく、こまめに流水と石けんで手洗いを励行しましょう。
- ② 睡眠をしっかりととり、偏食せずバランスの取れた食事を心がけ、体力をつけましょう。
- ③ 咳エチケット（※ 咳やくしゃみが出たら、他の人にうつさないためにマスクを着用する。マスクがない場合は、ハンカチやティッシュなどで口と鼻を覆い、周りの人から顔をそむけて1m以上離れる など）を守りましょう。
- ④ 室内は、加湿器などを使って、適度な湿度（50～60%）を保ちましょう。
- ⑤ 人が集まる場所への不要な外出は避け、出かける時は不織布製マスクを着用しましょう。
- ⑥ 症状などからインフルエンザが疑われる場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

一生懸命がすばらしい



## ～ 「(教頭なりの) ちよつといい話！」 ～

先日、ある保護者の方から、「今年の文化祭が良かったよ」という感想をいただきました。特に、「今の3年生が本当に良く頑張っている」、「3年生が良い雰囲気をつくってくれている」との話題になりました。その中で、

「家で子どもが、『今の栗中は、一生懸命やらないことの方がダサいんだ!』と言っている。」と伺いました。私なりに、「みんな当たり前前に何事にも一生懸命に取り組んでくれている。」、「頑張ることは当然のことという価値観をもってくれている。」と非常に前向きに捉えさせていただきました。

さて、私が教諭として最初に本校に赴任した平成18年4月1日、正門下の坂道を自家用車で上がってくる最中に、出会う生徒一人一人が皆立ち止まり、こちらを向いて笑顔と大きな声で「おはようございます!」と、相手意識を持って本当に気持ちの良い挨拶をしてくれました。正門を通り抜けると、バレー部、野球部が練習を止めて、こちらを向いて挨拶してくれ、部室裏を通過すると、ソフトボール部、陸上部、バスケット部、サッカー部が、他の部に負けじと気持ちの良い挨拶してくれました。しかも、一部の生徒だけではなく全員が。それは、やらされ感のある挨拶ではなく、自主的で非常に気持ちの良いものでした。当時の全校生徒は、約600人でしたが、その挨拶は、その日だけのことだけではなく、年間を通してずっと続きました。その挨拶だけ見ても、「なんて素晴らしい学校だ!」と感動したことを今でも覚えています。



「挨拶は学力です!」



私自身のモットーとして、それまで勤務した全ての学校で「頑張る生徒がしんどい思いをしてはいけない。」「一生懸命する生徒が認められる学校にしよう!」と、口酸っぱく言っていました。本校に来て、『一生懸命がすばらしい』という言葉に出会いました。当時は、現在のように学校教育目標ではなく、あくまでも「校訓」や「生活目標」のような心構えとしての位置付けでしたが、自分なりにしっかりと心に落ちていきました。年度末に転勤していく先生のお別れの言葉のほとんどが、「栗中の『一生懸命がすばらしい』を大切にしてほしい」というものでした。

これまで、生徒が入れ替わる中で、何かに一生懸命取り組んだり、人前で発表したりすること自体を恥ずかしいと思うような時代(雰囲気)も確かにありました。しかし、上記の保護者の方の話聞き、一生懸命を恥ずかしいと思う風潮を払拭し、「一生懸命がすばらしい」という言葉が生徒たちに浸透していることをうれしく思い、昔のことを懐かしく思い出しました。当時の教え子や同僚の中には、現在尾道を離れている人もいますが、栗中の卒業生であること、あるいは栗中で勤務していたことを誇りに思っている人が数多くいます。

本校の学校経営目標として掲げている

『栗原に愛着と誇りをもつ』ことが実現できている現れではないでしょうか。

生徒及び保護者の皆様は、いかがでしょうか。生徒は自分たちの学校を、保護者の方にとっては我が子が通う学校を、自信を持って「好きです!」と言えますでしょうか。

今年度、3年生がコロナ禍に負けず新たな風を吹き込んでくれ、それを見た1・2年生が「次は自分たちが…」という良き流れ(伝統)ができつつあり、本当に今後の栗中の成長が楽しみでなりません。生徒会スローガンである「全員主役」のもと、さらにより良い学校を一人一人の積極的な行動で、みんなで創り上げていきましょう。今の栗中なら必ずできると信じています!

